

図書館支援プロジェクト ～英語で絵本を楽しもう！～

読書の意味は、多くの新たな価値観に触れられるようになることです。未来を創る子どもたちにそんな機会をもってもらいたい…。そんな気持ちでプロジェクトは生まれました。



「英語で絵本を楽しもう！」のようす①

活動の概要

目的	図書館活動支援 / 出版文化・読書推進支援 / 東日本支援活動のキャンペーン
連携メンバー	吹田市立千里図書館 特定非営利活動グループ あくせす・ほいんと 関西大学外国語学部教授 石原敏子 / 関西大学文学部教授 渡邊智山
活動地域	大阪府吹田市および周辺自治体
活動期間	2012年4月～(継続中)

連携の経緯

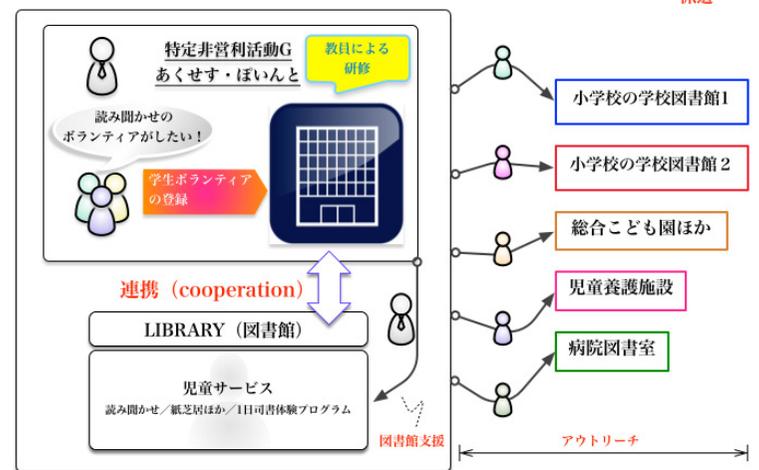
生涯学習のスタートラインは、多くの「本」に親しむことである。発達心理学の分野では、絵本の読み聞かせが、子ども自身の読書の取り組み方に影響を与えるだけでなく、子ども自身を取り巻く「世界」を学ばせられるという教育的効果を示されている。NPOあくせす・ほいんとでは、図書館を支援するという理念のもと、全国各地で行われている図書館での読み聞かせの活動を踏まえ、「英語で」読み聞かせを行うというプロジェクトを実施することとなった。(本プロジェクトは、NPOあくせす・ほいんととの活動(前ページ掲載)の一つであり、先行している「学校図書館へ本を「贈ろう」プロジェクト: Books for You」関連プロジェクトとして派生した活動である。)

解決すべき課題

- (1) 図書館サービス(児童サービス)支援の充実化と恒常化
- (2) 英語導入教育のあり方の検討
- (3) 出版文化の持続的な支援と読書推進活動の貢献
- (4) 「図書館を活用した学び」の認知度向上



英語で絵本を楽しもう！プロジェクト(概念図)



大学の役割

「学び」とは、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などを育成することである(文部科学省)。図書館は、生涯を通じて学ぶことのできる社会的インフラストラクチャであり、その理念には「図書」を通じた学習機会の提供がある。全国約97%の小学校が、読み聞かせを実施(「H26年度学校図書館の現状に関する調査」)している中で、学びの環境・読書の環境をさらに発展させていくためには、「行政」と「大学」との主体的互恵関係が必要である。NPOあくせす・ほいんとは、これまで十分ではなかった図書館での外国語教育プログラムの一環として、「英語で絵本を楽しもう！」を企画し、「官」と「学」との媒介者の役割を果たすものである(上記プロジェクトイメージ図参照)。

成果

- (1) 吹田市立千里図書館でのイベント開催(5月、7月、12月、翌年3月)
- (2) LibCafeと称する公開セミナーの実施(外部レクチャによる勉強会等)

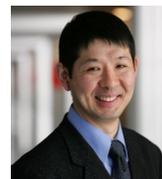
今後の展望

- (1) 魅力あるプログラムの開発(絵本の選定とアクティビティの開発)
- (2) 外部資金獲得のための諸活動
- (3) 吹田市以外の市町村への活動拡大
- (4) 学生ボランティアの持続的確保



「英語で絵本を楽しもう！」のようす②

研究者の紹介



文学部 教授
渡邊 智山
(わたなべ としたか)

専門は、図書館情報学。図書館における情報通信技術の活用、および図書館サービスの在り方について、図書館の社会的使命を基本的に考察している。

